

平成27年3月4日

高森中央学園学校運営協議会委員 様

高森中央学園学校運営協議会会長 井芹太一

第4回 高森中央学園学校運営協議会会議録

下記のとおりご報告申し上げます。

記

1. 日時：平成27年3月4日（水）19：00～
2. 場所：高森中学校会議室
3. 出席者等
運営協議会委員15名
堺審議員、各校教頭、高森中央学園CS担当職員
4. 開会
会長あいさつ
5. 協議
 - (1) 学校関係者評価
 - 高森中央小学校の結果報告等（河津教頭）
 - (1) 項目の改善点の報告・・・学校運営協議会提出の「学校評価項目に関する意見」を参考に評価項目の見直しを行った
 - (2) 自己評価や保護者アンケート、児童アンケート結果の報告、説明
 - (3) 質疑応答
 - 授業参観の保護者参加率はどのくらいか（宇藤）
→8割以上は参加している(河津)
 - PTA研修会への保護者参加率はどのくらいか（宇藤）
→PTA研修会の案内は、保護者全員に行う。参加は、PTA役員構成中の研修委員が主である（河津）
 - 高森中学校の結果報告等（森教頭）
 - (1) 項目の改善点の報告・・・学校運営協議会提出の「学校評価項目に関する意見」を参考に評価項目の見直しを行った
 - (2) 自己評価や保護者アンケート、生徒アンケート結果の報告、説明
 - (3) 質疑応答

- 小学校、中学校に言えることだが、自己評価と保護者・生徒アンケートとの絡みはどうなっているのか。(学校評価に関するガイドラインでは、学校は、保護者のアンケートや児童生徒のアンケート結果も加味して、自己評価を行うとあるため)(古庄)
 - 保護者アンケートや児童アンケートは、保護者・児童・教職員の意識の差を見て、いかに差異を縮めていくか、評価を高いものにするか方策を見つけていくための資料にするものと捉えていた(河津)
 - 学校経営の基本方針の努力目標「確かな学力の育成」「豊かな心の育成」「たくましい身体の育成」とあわせようと項目を作成している。そして、今回は、教職員と保護者の意識差を見ようと評価や分析を行った。今後、整合をとっていかないといけない(森)

- 時期によって評価が変わってくると思うが、そのことについてはどのように考えているか(古庄)
 - 保護者や児童へのアンケートは、時期によって評価が変わってくる。今後は、行事ごとに保護者へのアンケートをこまめに行っていくべきだと考えている(河津)
 - 行事の後とそうでない時に年2回アンケートを行う等、何らかの工夫をしていく必要があると考える(森)

- 学年の差異が見えてこない。小学校に関しては、低・中・高学年に分けて分析、説明するとわかりやすいのではないか(古庄)
 - 学年ごとのデータ分析の必要性を感じた(河津)
 - 小学校は学級担任制なので、自分の学年の児童のことはよく把握しているが、全学年の児童について判断となると難しい。学年ごとの評価・分析していくことを検討していく(東)

- 保護者アンケートの回収率はどのくらいか?(井芹)
 - 87.5%(河津)
 - 配布した学校評価シート作成時は77%。シート作成後も提出があり、それを加えると80%程になる(森)

- 職員には異動がある。家庭学習に関しては、以前いた学校等と比べて家庭学習の時間が多い・少ないと評価しているのか(代宮司)
 - 他の学校とは比較していない(古庄)
 - 県内の他の学校と比べて、高森中央小学校、高森中学校の家庭学習

時間が極端に少ないわけではない（古庄）

→全国と比べれば家庭学習時間は少ないので、今後も対策を講じていく（東）

●家庭学習の時間については、具体的な学習時間数を調べているのか。また、職員、保護者と学習時間の多さについて、感覚的な違いはないのか（羽山）

→時間数の調査はしていない（河津）

→学年では目安として、時間数を決めている。しかし、職員は宿題をしてきているか等提出物で家庭学習について判断している部分が強い（森）

●「確かな学力の育成に関して」の評価で、A評価が3つ B評価が2つなのに、総合評価がBになっているのはなぜか（後藤）

→A評価は3つだが、B評価の2つのうち1つが、全24項目中最も評価が低いものであった。そのため、総合評価を出す際に影響して、総合評価がBとなっている（森）

○委員による評価

今回の学校関係者評価は、個人の評価を高森中央学園学校運営協議会の学校関係者評価として集約した後、教育委員会に提出する。

（2）部会について

来年度から実働していく予定。

6. その他

・事務連絡

○会計報告

7. 閉会

以上